

栃木県塩谷郡氏家町  
阿久津方言の比喩語について

篠木 れい子

はじめに

1. 調査対象地：氏家町は栃木県の概ね中央部に位置し、東は那須郡南那須町および喜連川町、西は鬼怒川を挟んで河内郡上河内村および河内町、北は荒川を挟んで矢板市および塩谷町、南は高根沢町と接している。宇都宮市からおよそ20Kmほど北にあり、関東平野の北限に位置する。阿久津は氏家町の南にあり、集落の真ん中を国道4号線が縦断しており、定期運行バスが1日に10本ほど走っている。JR駅まではおよそ3.5Km。主な産業は農業であるが専業農家は少ない。人口1011人、世帯数は282世帯である。
2. 調査年月日：1992年12月22日午前10時～午後1時30分
3. 話者：石岡 光雄さん 大正15年1月30日生（66歳）  
他に大橋功さん（64歳）と砂岡礼子さん（23歳）に同席していただいた。
4. 調査者・調査場所：篠木れい子・氏家町ミュージアムの応接室
5. 調査方法・調査時の様子：調査表に基づき尋ねる方法。必要に応じて同席者に発言を求めた。砂岡さんは氏家町桜野の出身であり、しかも町全域の古老が用いる方言に詳しいので、時に応じて適切な資料を提供してくださった。  
大橋さんはミュージアムの館長、砂岡さんは学芸員、そして話者石岡さんは囃託研究員として活躍なさっている。三人はごく親しい間柄で、始終なごやかな雰囲気の中で調査は行われた。
6. 資料について：共通調査項目についてはその番号に従い、比喩語でない語や表現も記述した。それ以外に得られた比喩語については（）付きの番号で示した。なお、当方言は無型アクセントであるので、アクセントの記述は省略した。

I・〈 自然現象 〉

- 1 日照り雨 オテンキアメ（お天気雨）＜名＞
- 2 入道雲 ニュードークモ＜名＞ 理解語。
- 3 旋風 ツムジカゼ（つむじ風）＜名＞ [老]  
頭の旋毛もツムジと言う。ツムジのように吹くことから。
- 4 霜柱 オリギ＜名＞ [老]
- 5 つらら アメンボ（雨の棒）＜名＞ [老]  
氏家町の北部ではサガリンボ（下がりん棒）とも言う。

- 6 北斗七星 ホッキョク<sup>ク</sup>セー（北極星）＜名＞ 北斗七星。北極星。  
 7 昴 スバル＜名＞ 理解語。  
 8 流れ星 ホーギボシ（彗星）＜名＞ [老]  
 流れる星の光が彗のような形に見えることから。不吉なことが起きる前兆と思われていた。氏家町の北部ではホシクソ（星糞）＜名＞という。

## II ( 動物 )

- 9 かわはぎ カワハギ<sup>ク</sup>＜名＞ 理解語。  
 10 ひらめ ヒラメ＜名＞  
 11 ひきがえる バンダンガ<sup>ク</sup>エル（ぼんだん蛙）＜名＞ [老]  
 12 青大将 ×  
 13 とかげ カナヘビ（金蛇）＜名＞ [老]  
 14 かまきり カマゲッチョ＜名＞ [老]  
 15 みずすまし ジーカギムシ（字書き虫）＜名＞ [老]  
 その動きがまるで字を書いているように見えることから。  
 16 きつつき ×  
 17 せきれい セギリイ（せきれい）＜名＞  
 18 ふくろう ホロスケ＜名＞ 鳴き声に由来する語。  
 (1) 蛇の総称 ナガムシ（長虫）＜名＞ [老]  
 (2) 蛇の一種 ヌシ（主）＜名＞ [老] しっぽの短い蛇。  
 この蛇は家によくいることから。  
 (3) あめんぼう ①スイスイムシ（スイスイ虫）＜名＞ ②カッパ（河童）＜名＞  
 ①はあめんぼうが水面をスイスイと泳ぐことから。②は河童のように泳ぎが上手なことから。  
 (4) いもり アガハラ（赤腹）＜名＞ [老] 腹が赤いことから。  
 (5) すなどじょう スナサビ（砂錆び）＜名＞ 川魚の一種。 [老]  
 どじょうより小さな魚であるが、体に小さな斑点があることから。  
 (6) かまつか バカゾー（馬鹿僧）＜名＞ 川魚の一種。 [老]  
 カジカに似ている魚。スナサビよりずんぐりしている。  
 (7) たにし ツブ（粒）＜名＞ ツブラッコとも。 [老]  
 (8) 鼠 オヨメサン（お嫁さん）＜名＞ [老]  
 (9) くわがた オニムシ（鬼虫）＜名＞ [老]  
 (10) ありじごく ジロッコタロッコ（次郎っこ太郎っこ）＜名＞ [老]

Ⅲ 〈 植物 〉

19 馬鈴薯 ジャンガラエモ<名> [老]

20 ともろこし トーミギ<名>

21 いんげん ナンキンマメ(南京豆)<名> 単にナンキンとも。 [老]

ナンキンには蔓のあるジジナンキン(爺南京)と蔓のないババナンキン(婆南京)の二つの種類がある。

22 そら豆 オダフクマメ(お多福豆)<名> [老]

形がお多福に似ていることから。

23 木くらげ ×

24 げんのしょこ ゲンノショーゴ<名>

25 どくだみ ジゴグソバ(地獄そば)<名> [老]

26 いたどり スッカنبオ<名> [老]

食べられないいたどりはオニスッカنبオ(鬼スッカنبオ)と言う。

27 からすうり カラスウリ<名>

28 すみれ スミレ<名>

29 春蘭 ジジババ(爺婆)<名> [老]

30 母子草 ×

31 ねむの木 ネブタ<名> [老]

氏家町には、7月7日七夕の早朝に行われる「ネブタ」あるいは「ネムツタナガシ」と言われている行事があった。ネムの葉がまだ開かない朝早く、その枝を折って川へ行き、それを流して水浴をすると一年中眠気がさきないと信じられていた。ねぶた祭りの「ねぶた」と関係があるか。

(11) おおぼこ カエルッパ(蛙葉)<名> [老]

(12) うらしまそう ヘビノマグラ(蛇の枕)<名> [老]

(13) ねこやなぎ チンコロタンコロ<名>

(14) おみなえし ボンバナ(盆花)<名>

お盆には、この花を仏様に供えることから。

(15) おなもみの実 ①トビツカレ(飛び付かれ)<名> ②バカ(馬鹿)<名>

この実はよくセーターなどに付くことから、遊びに使われる。この遊びに由来する語である。

(16) つゆくさ ホータルグサ(蛍草)<名>

(17) おきなぐさ カーラチゴ(河原稚児)<名> [老]

(18) もじずり ネジレンボ(振れんぼう)<名> 花がねじれてさくことから。

(19) えんどうまめ サンドマメ(三度豆)<名> [老]

いくども収穫することができることから。

- (20) かぼちゃ トーナス (唐茄子) <名> [老]  
 (21) とまと アカナス (赤茄子) <名> [老]  
 (22) さといも デロイモ (泥芋) <名> [老] 泥が付いていることから。

#### IV < 性向 >

- 32 熱しやすく冷めやすい人 ミッカタロー (三日太郎) <名> [老]  
 ムギンナッテ (熱中して) も、どうせ続くのは三日だろう、ということから。
- 33 あわてん坊 ×
- 34 動作の鈍い人 ウスノロ <名> ノロマとも。
- 35 嘘つき ①マンカラヤロー (万空野郎) <名> [老]  
 年がら年中、中身の伴わない空っぽ、即ち嘘ということから。他に、チクラン  
 ボー [老] あるいはゴジャッペヤローともいう。チクラッペ、ゴジャッペは「嘘  
 」を意味する語。  
 ②デホラグ カダル (出法楽語る) <句> 嘘をつく。 [老・多]
- 36 ほらふき ①テッポブジ (鉄砲撃ち) <名> [老]  
 ②オーブロシキ (大風呂敷) <名> [老]
- 37 おしゃべり ①デンポハイダズ (電報配達) <名> すぐに告げ口する人。  
 ②クチ アマス (口あます) <句> 余計なことを言う。  
 ③アブラッカミニ ヒー ツイダヨーダ (油紙に火が付いたようだ)  
 <句> おしゃべりのはげしい様子の表現。 [老]  
 「おしゃべり」に相当する語は、オチャベ [老] あるいはオチョベである。  
 チョベヤローは軽口をたたく人をいう。
- 38 冗談言い ヒョーゲル <動> 冗談を言ってふざける。
- 39 口先だけの人 クチツァキダゲノ ヒト (口先だけの人) <句>
- 40 とんちんかんなことを言う人 チンブンカンブンナコド ユー ヒト <句>
- 41 のらりくらり煮えきらない人  
 ユーダガ ミズダガ ワガンネー ヒト (湯だか水だか分からない人) <句>  
 湯のように熱くもなく水のように冷たくもなく、どちらかはっきりしない人。
- 42 怒りっぽい人 カンシャグモジ (癩癩持ち) <名>
- 43 気むらな人 オテンキヤ (お天気屋) <名>
- 44 泣き虫 ナギムシ <名>
- 45 おてんば娘 ハネッカエリ (跳ねっ返り) <名>
- 46 腕白坊主 ガギダイショー (がき大将) <名>
- 47 出しゃばり デシャバリ <名>
- 48 どこへでも顔を出す人 マグソッキノコ (馬糞茸) <名> [老・卑・少]

どこにでもやたらに生える茸に譬えた語。多くはデスツパキヤローという。

- 49 家にこもって外出しない人 デブショー（出無精）〈名〉
- 50 小心者 キモツマノ チツツエー ヒト（肝っ玉の小さい人）〈句〉
- 51 内弁慶 エンナガベンケー（家の中弁慶）〈名〉
- 52 人づきあいをしらない人、社交性のない人  
ツキアイガ<sup>カ</sup> ブキッコヨダ（付き合いがぶきっちょだ）〈句〉
- 53 妻に対して頭の上がない人 ザブトン（座布団）〈名〉 [老]  
座布団は尻に敷かれることから。
- 54 けち ①ペロモ ダサネー（舌も出さない）〈句〉  
②ケーロメミデーナ ヤローダ（蛙みたいな野郎だ）〈句〉
- 55 欲張り ゴーツクバリ〈名〉あるいはヨグバリ〈名〉。
- (17) 値打ちのない人 ヒャーモ シネー（百もしない）〈句〉  
その他にカツツァカネ〈形〉[老]やヘデナシ〈形〉がある。
- (18) 凶々しい人 オーヘータガリ（横柄たかり）〈名〉
- (19) 偉ぶる ハバッキダ〈形動〉 偉ぶったりいい格好をする様子。
- (20) 臍曲がり キヌカワオ タテニ コク（鬼怒川を縦に漕ぐ）〈句〉  
川を渡る場合には、横に漕いで渡るのが普通であるのに、縦に漕いで人と違ったことをして渡ることから、臍曲がりをいう。
- (21) 責任逃れする ホッカブリ スル（頬被りする）〈句〉
- (22) 仕事が一入前でない人 ネゴニ キマシダ（猫に気増した）〈句〉  
することが猫よりは気分的にはやや増したということから。

## V 〈 食生活 〉

- 56 大食漢 クライヌケ（食い抜け）〈名〉 [老・稀]  
食べても抜けていくようにいくらでも食べることから。
- 57 ぼたもち ボダモジ〈名〉
- 58 砂糖味が薄い ×  
少しでも砂糖が入れば御馳走だったので、これに相当する表現はないとのこと。
- 59 塩味が薄い ウマノションベン（馬の小便）〈名〉  
[備考] 桜野ではハナミズ（鼻水）に譬えている。
- 60 大酒飲み ヒスケグル（干透け樽）〈名〉  
干いて透き間ができていく樽に酒を注ぐようなものだから。
- 61 酒に酔ってくだをまく グダ マグ〈句〉
- 62 酒に酔って顔が赤くなる、そのさま  
①エリヒガ<sup>カ</sup> イー（入り日が良い）〈句〉 空を赤く染める沈む太陽に譬えた

表現。 ②ユデダゴノヨーダ (茹で蛸のようだ) <句>

VI ( 動作・様態 )

63 恥ずかしくて顔が赤くなる、そのさま カオガ ホドル (顔がほどる) <句>

64 どしゃぶり雨

ミス ブンマゲダヨーナ フリダ (水を撒けたような降りだ) <句>

65 ずぶ濡れ・びしょ濡れになる、そのさま ビショクサレ<名>

66 服装がだらしないさま アワシマサマミデダ (あわしま様みただ) <句>

いろいろな物を身に付けて、だらしが無い様。あわしま様は女の神様で、色々なものをたくさん体につけ、あるいは背に負っていることから。

67 髭がのびた放題なさま ブショーダガリ (不精たかり) <名>

68 厚化粧している人 カベ ヌタグックヨーダ (壁塗たくったようだ) <句>

69 背丈の高い人 ①デンシンバシラ (電信柱) <名>

②ハンショードロボー (半鐘泥棒) <名> [老]

背が高いため半鐘に手が届くほどなので、真っ先に半鐘を打つことができるということから。

70 出びたい デビ<名>

71 汗がびたいから流れ落ちる アセ ビッチョリダ (汗がびっしょりだ) <句>

72 目を丸くする ビックラ コグ (びっくらこく) <句>

73 口をとがらす ツノクチ スル (角口する) <句>

74 焦げ臭いにおい キナクセー<形> コケクセー<形>

75 遠回りをする ナベノ ツルミデダ (鍋の轆るみただ) <句>

76 末っ子 ①ネゴノシッポ (猫の尻尾) <名>

②シッペタ (尻べた) <名>

①②より多く用いられる語にバッチッコ<名>がある。

77 一所懸命頑張る ムギンナッテ ヤル (むきになってやる) <句>

(23) 次第によくなるさま ホッケノタイゴ (法華の太鼓) <名>

法華の信徒が鳴らすドンドンとう太鼓の音にかけた表現。

(24) きれいで派手な服装をしているさま アメヤノヨーダ (鉛屋のようだ) <句>

鉛を売りに来た人が、いつもきれいで派手な服装をしていたことから。

まとめ

川にかこまれた農業の町だけに、川魚や植物の名称に比喩語が多い。また、(性向)を表す語彙や表現が多く、その中には比喩語や比喩表現が多い。

(しのぎれいこ 群馬県立女子大学文学部)